

さとう健司

県政報告
Vol.22

◆平成30年7月県議会◆

新生美術館の整備を見直し

Q 今後の美術館整備の考えは？

A (知事) 新生

美術館プロジェクトについては一旦立ち止まるが、喫緊の課題である近代美術館の施設設備の狭あい化、老朽化対策、琵琶湖文化館の機能継承に対応する改修や増築等について検討していく。

Q 集客力や他府県の美術館との競争力も見込めず、美術館の使命を達成できるのか？

A (知事) 神と仏の美、近代・現代美術やアール・ブリュットの収蔵、展示をする美術館として「美の滋賀」の拠点となるようソフト面等で工夫していく。現時点では、基本計画の来館者目標30万人に代わる想定は持ち合わせていない。

Q 近代美術館は最低限の改修に留め、文化財の新たな拠点のあり方を検討しては？

A (知事) 琵琶湖文化館の収蔵品については、近代美術館の増築等に対応する考えだが、改めて文化財関係者から意見をお聴きした上で整備内容をとりまとめ、ご理解いただけるよう努める。

解説

新生美術館の整備について、知事は7月県議会で「一旦立ち止まる」と述べ、見直す考えを表明しました。これまでも新館の面積が基本計画から大幅に削減されたことや館長をはじめ運営方針が示されないなど問題点を指摘してきましたが、昨年の建築工事の入札不落を受けて、さらに面積や機能を削ることを模索したものの、こうした事態に陥りました。

これを契機に、場当たりの対応ではなく、新生美術館基本計画を見直し、県民の皆さんと「美の滋賀」の拠点としてより良いものになるようにしていくことが重要です。

日本遺産の認定や文化財保護法の改正、文化庁の京都への移転を受けて、文化財の新たな交流、発信の拠点のあり方を検討するよう提案しました。

大戸川ダム建設予定地を
知事が視察

県は、今年度、大戸川流域へのダムの治水効果等について独自に検証するため専門家から助言を得る勉強会を発足させ、検証を進めています。

今年5月には、知事が就任後初めて、大戸川ダム建設予定地を視察し、流域の住民の皆さんと意見交換を行いました。視察に同行するとともに、「住民は政治に翻弄されただけでなく、現在も毎年のように避難勧告が出る危険な状態に置かれている。1日も早い本体工事の着工に向けて、地域の思いを国や下流府県に発信してほしい」と知事に求めました。

意見交換を受けて、知事は、「勉強会で川の現状や雨の降り方を改めて掘り込んで、地域の思いを国や下流府県に伝える責任を知事として果たしていきたい」と述べました。



全国各地で水害による甚大な被害が発生する中で、これから大戸川をはじめ県内の河川整備の推進に全力で取り組んでまいります。

活動報告 活動ギャラリー



第48回 びわ湖(漁場)をきれいにする運動に参加